

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400080		
法人名	メデカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 市原国分寺台		
所在地	千葉県市原市国分寺台中央4-1-5		
自己評価作成日	平成27年1月24日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成27年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様、ご家族様、スタッフも喜怒哀楽がありその中でも喜びや楽しさ、そして笑顔の多い温かいホームを目標にしています。
 ・個別の外出
 ・月に1回、ユニット毎の外出または外食
 ・月に数回のボランティア(手品・大正琴・三味線・傾聴等)来訪
 ・月毎に行う、利用者様のお誕生会や季節行事。特に夏祭りはご家族様、地域の方やボランティアの方々の参加を集いお招きし、盛大に行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に行政、地域の方、家族、知見者として他地域密着事業者にも参加いただき、幅広い視点から意見を頂きサービス向上に活かしている。自治会との連携も良く取れており、毎週地域のボランティアの方に来ていただいたり、夏祭りに地域の多くの方に参加頂いて入居者、家族ともども交流を深めている。地域の方から単独外出などがあたらご連絡下さいねと言っていたほど地域によく溶け込んでいる。同一法人エリア内の他グループホームと合唱コンクールや運動会、毎月の外出・外食行事や出張の屋台ラーメンや板前の握り寿司など入居者が楽しく過ごせる企画を多く実施している。特に「その人らしさを大切に全てを受け入れる」支援に努め、入居者も職員も互いに喜怒哀楽を共有し笑いの多い温かみのあるホームを目指し、個別自立支援にチームワーク良く取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念は申し送りや会議時に必ず唱和して職員全員共有しています。職員には、入社オリエンテーションに組み込み必ず説明しています。	法人の理念とクレドを会議冒頭に唱和しケアの方向性を共有している。特に「その人らしさを大切に全てを受け入れる」。入居者も職員も互いに喜怒哀楽を共有し笑いの多い、温かいホームを目指し個別自立支援をチームワーク良く実践するよう努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に、近隣の人と会話をしたり、運営推進会議や避難訓練などへご参加頂いております。又、地域の運動会や幼稚園の行事への招待には継続して参加しています。	自治会の皆でやる防犯などの行事に参加。地域の小学校の運動会や幼稚園の行事に招待され参加。ホームの夏祭りで多くの地域の方と交流。毎週の地域ボランティアの来訪。日頃の散歩時の交流。近隣の方の雪かき手伝いなど等、地域にすっかり溶け込んだホームであることが運営推進会議議事録からも読み取れる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症に関する情報や対応方法をお伝えさせて頂いています。自治会の方々が月に1度傾聴ボランティアで来訪くださり、回覧板等にて様子が出ていたりします。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の様子や行事などの活動報告をさせて頂き、御家族様からもご意見を頂戴しております。家族間での意見交換も行って頂き、レクリエーションや行事に取り入れるようにしています。	行政、自治会長、地域民生委員、近隣施設の知見者や家族と幅広い方々の参加を得て2ヶ月に一度定期的に開催している。色々な視点からの意見をサービス向上に結び付けるようにしていることが議事録にも良く表れている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を頂き、運営状況を報告しています。疑問や質問は、都度確認させて頂いています。	高齢者支援課、地域包括職員の方にも運営推進会議にも出席いただきホームの運営状況なども知って頂いている。また、毎月高齢者施設課を訪問し常に連携し協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束防止の研修会を行っています。職員には入社時オリエンテーションの中で説明をしております。	毎年身体拘束についての研修を行っている。単独外出事故発生を契機に対応方法や職員間の連携などを話し合い、職員の意識とスキル向上を図り、玄関の施錠も含め、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止の研修と合わせて、定期的に研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的にコンプライアンス、ご利用者様の権利や尊厳の研修を行っております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に読み合わせを行い、一項目ずつ内容を確認しています。不明な点や疑問点の有無を尋ね、あれば再度説明しご理解を頂いております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて御家族様から必ず意見を頂いています。各職員へも伝達しており、内容によっては、ケアプランへの反映に努めております。	毎月のお便りに写真入りの様子、医療情報の他介護計画の実施状況もお知らせし家族から具体的な意見や要望を言っていただき易いようにしている。毎回家族に運営推進会議参加案内をしている。敬老会や誕生会、夏祭りなど家族に参加いただく行事も多く、その都度家族同士で交流して頂くと共に意見や要望をお聞きし運営に反映させるようにしている。また毎年法人がご家族へのアンケートを行っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議やユニット会議で、意見を出してもらい内容を検討後、活動に活かしています。各委員会を設け、スタッフが提案・企画した行事等が開催できるようにサポートしています。	毎月の全体会議ではホームの現状を全て話すようにし、職員からの意見や要望を言っていただき易くしている。管理者も日頃共にケアに入っており、気軽に意見や要望を言い易いと職員も言っている。おやつ・外出・行事などの委員会を作って職員からの企画や提案を積極的に取り入れている。同一法人合同の合唱コンクールや運動会など入居者と職員が一体感を持てる行事も多く、職員同士の連帯感、達成感、遣り甲斐に繋がっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	個人面談を行い、個々の思いを聞き、助言や励ましの言葉をかけるようにしています。勤務の状態によっては、契約社員から正社員、リーダーへ昇格も行っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の全体会議で研修の時間を設けスキルや知識の向上に努めています。ケアについては都度情報の共有、意見交換を行い努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所の方々に夏祭りへ招待し、交流できるようにしています。管理者として訪問した際に意見交換をさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで訪問した際、傾聴し、出来る限り不安や要望を確認するようにしています。状態や注意点を職員に周知できるように、書面にて回覧し入居に備えています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに基づきプランを作成、入居時には説明と確認を行っています。入居後の状態を細かく報告しながら、変化に伴い出てくる不安や要望を聞き対応出来るようにしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を優先したプランの策定を心掛けています。必要と思われた時には福祉用具の検討もしています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来る事は一緒に行い、見守るようにしています。食材の買出しにも一緒に出かけ、お手伝いを頂いています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などの参加を勧め、一緒に過ごす時間を作るようにしています。状態によっては、家族の支援や助言などをお願いし協力頂いております。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方が、ボランティアで定期的に来訪し、お琴や歌を披露して下さいます。自宅への訪問も行っています。	入居時によく行った場所や親しかった人などを把握するようにしている。友人の方に大正琴や三味線のボランティアに来ていただいている。入居者が良く行ったことのあるドイツ村のイルミネーション見物など個別外出支援している。行きつけの床屋さんや家族との外食・外出や宿泊などご家族との団らんの機会を持って頂く等の支援を続けている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが話しやすい環境や配置を考慮しています。家事作業やレクリエーションなど、場面に合わせ配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去され他施設に入居された入居者様に面会をさせて頂いています。ご逝去された場合でも必ず通夜、葬儀に参列させていただいております。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からモニタリングに努め、意向や希望を把握するようにしています。日常の様子や言葉からも、把握できるよう職員からの情報も含め検討しています。	職員が入居者と過ごす中で、実際に見聞きした言動をケア記録に留めている。入居者の様態や気付きを連絡ノートに記入している。必要に応じ、絵で示した分かりやすいもので、意向や思いの把握にケア記録や連絡帳が活用されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルから情報を収集したり、日常的な会話や御家族様や以前利用していた所から情報を得ています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子がわかるように、個人ファイルに記録し観察しています。変化がある時は、申し送りや伝え把握出来る様にしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様の担当が月一回モニタリングを行うと共に、他職員からの意見や御家族様の意向を確認し検討、ケアプランの策定を行っています。	職員は毎月、担当入居者のモニタリングをしている。計画作成担当者は、毎月のユニット会議での情報交換や職員のモニタリングを参考に計画を作成している。変化があれば、入居者・家族、職員・看護師・ホーム長、必要に応じ主治医等で担当者会議をし検討し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践などは、個人ファイルに記録し、情報共有に努めケアをしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のご本人やご家族様の状態や状況に合わせた臨機応変な対応を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご入居頂いていた利用者様と一緒に活動していた方々がボランティアで慰問して下さったり、近郊の施設やご家族様より紹介して頂き毎月慰問して下さっています。自治会の方も傾聴ボランティアでホームに来院しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の今までのかかりつけ医と往診医を選べるようにしております。通院は御家族様に協力をお願いしていますが緊急時や不可能な場合は職員が行う事もあります。	元々のかかりつけ医への受診は原則家族が同行し、日頃の体調や食事量等を伝えて受診支援している。緊急時は職員が付き添っている。往診医の紹介状で専門医を受診する場合もある。いずれの場合も受診状況を連絡し合い、情報を家族、ホーム、医療機関が共有し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと24時間の体制で連絡が取れるようにしております。何かあった場合はすぐに対応できるような体制をとっております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に入居者様の情報を伝えていきます。入院時には面会に伺い看護師や医師に状態をうかがい今後の相談をしています。御家族様にも連絡をさせて頂いています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医、訪問看護、御家族様、職員に協力して頂き看取りも行っています。	重度化した場合には家族と相談し、家族の意向に沿う支援を行っている。家族が施設での看取りを希望された場合には、家族、往診医、訪問看護師、職員が24時間連携して対応している。訪問看護師、家族は毎日訪れ、家族が望まれば宿泊も可能であり、支援体制ができています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルと連絡方法を構築し、連携が取れる体制を組んでいます。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定し避難訓練を実施しています。消防署員も来訪頂き、助言や指導を受けています。行政の方も来訪されています。また地域の方々にも参加を呼び掛けております。	火災避難訓練は、近隣20軒ほどにポスティングで参加を呼びかけ、参加を得て実施している。未体験の夜勤者がおり、今後の実施が待たれる。消防署が近く、相談しやすい環境で協力体制が構築されている。	独自に考案した「防火用自主点検票」の17項目を毎日確認して、防火に努めている。夜間想定避難訓練を、夜勤する職員全員が体験することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のその時の状況・状態に応じた声かけや対応をしています。	家族に聞いて、入居者が馴染んでいる呼びかけをしている。人格を尊重し、入居者の話の傾聴に努めている。深く傾聴することで、入居者の心の安寧も図っているところが優れている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に行事や外出、外食など意見をもらい反映もしています。買い物の要望や個々での外出も行っています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度、生活の流れは決まっていますが、声かけをしてその時のご本人の気持ちなどを優先しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えなど、ご自分で選ばれている方もいます。外出する際には、軽いお化粧品などをされる方もいます。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き・配膳・盛り付け・片付けなど、個々に出来る事をして頂いています。	法人の「食の指針」により、地元の食材で調理することに重きをおいている。おやつ等を買に行ったり、毎月外食にも出かけている。移動パン屋、移動ラーメン屋やすし職人を施設に招き、入居者が好きなパンを選んだり好みの味や食べたいネタを注文して食べる等、食事を楽しむことのできる支援良く工夫し支援している。配下膳・盛り付け等も職員と一緒にいき、一緒に食べている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食個々に記録に残しており栄養吸収がなかなか取れない方には高カロリーのものをお出ししたり好物の物をお出し対応しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけし、出来る方は個々に行き、援助が必要な方は職員が対応しています。夜間は義歯をお預かりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせた対応をしています。オムツを使用している方でも、訴えがある場合は、トイレで介助させていただき対応しています。	排泄が自立・リハビリパンツ・尿取りパット・オムツ使用等さまざまである。日中は全員トイレでの排泄に向けて支援している。定時誘導支援で、尿意が回復した例がある。家族の希望で、夜間は睡眠を優先する場合もある。2人介助でトイレでの排泄支援等、自立に向けて取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に管理し運動や水分強化に努めています。状態によっては医師看護師に相談し対応をしています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々のその日の状態や状況に合わせて入浴して頂いています。ご本人より、入浴の希望があった時には、その時に入浴して頂いています。	週に2~3回入浴している。毎日入浴している入居者も複数いる。入居者本人が歌っている歌を流しながら、楽しい入浴となるように工夫している。湯は一人ずつ取り替え、入浴剤や保湿剤を利用して、肌の保護にも配慮している。拒否には相性の合う職員の声かけで、安心感を得て入浴している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態を見極め、日中でも休息を取っていただくようにしています。居室の温度調整や、パジャマに着替えていただくことで、リラックスして入眠できるようにしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服準備時にも薬表を見ながら確認し、内服介助時には日付け・後・名前・錠数を声に出し、職員同士と重複確認しています。又、入居者様にも同様に読み上げてから内服して頂いています。確実に飲み込むのを確認して、空袋の中の残薬の有無をチェックします。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来る事をお願いしたり、ご自身から積極的に近づいて頂けるような雰囲気を作っています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族様にも協力を依頼し外出をされたり、ホームの買い物と一緒に出かけたり、ユニットでの外出、個別での外出、気の合う女性のみで外出をしたりしています。	毎日散歩(15分~2時間)に出る入居者が2人同時でも、職員は夫々に付き添っている。全職員で話し合い、入居者の思いに沿うことを優先する取り組みを実施している。毎月遠出と外出に出かけている。家族にも呼びかけて、花見・ドイツ村のイルミネーション等を楽しみむ支援に勤しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの委員会を設け予算を伝えその範囲内で活動をしています。入居者様個々に小口現金としてお預かりし必要な時に使用しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に御家族様に了解を得ておりご本人から電話をかけています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や外には季節の花や飾りを置いています。ホーム内の階段やユニットの廊下・リビングには、写真を掲示したり、季節に合わせた装飾やご入居者様が作られた作品を掲示しています。	毎日、入居者の相性・雰囲気 considerando している。コミュニケーションをとりやすいようにソファ・テーブルの配置を換え、活気づくように気配りしている。防災絨毯を敷き、朝は換気して快適な空間管理に努めている。階段の壁やいたる所に入居者の習字や写真が貼られて、柔らかい雰囲気が醸し出されてる。花壇・野菜作りは経験ある入居者と職員が行い、庭に出る楽しさを提供している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方々でテーブルを囲み、昔話をしながら泣き笑いをされて過ごす方もいます。共有スペースではあっても、ソファに一人で座り、ゆっくりとテレビを見ながら寛ぐ方もいます。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベットや、タンスなどの家具を持ち込まれ生活されている方もいます。状態に合わせて、配置変えをしています。	居室には、賞状・習字・家族の写真・ソファ・姿見・家具調仏壇・応接セット・ベット等馴染みの愛用品を持ち込み、それぞれが落ち着ける居心地よく過ごせる工夫がみられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレなどには手すりが設置してあるので安心して生活できます。居室ドアに名前を表示したりわかりづらいトイレにも表示されています。		